



# 環境経営レポート 2022

〔対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日〕

発行日：2022年8月26日



緑でネットワーク  
九州林産株式会社



ずっと先まで、明るくしたい。

平治岳から坊ガツル湿原、三俣山、硫黄山を望む（大分県）

# 目次

はじめに	1
経営方針・環境経営方針	1
沿革 ～ 環境と共に歩んだ歴史 ～	2
会社概要	3
事業活動と環境経営の融合を目指して	4
2021年度環境経営目標・実績・評価	6
実績グラフ（2013年度を基準とした実績・効果）	7
環境パフォーマンス（これまでの取組み成果）	8
2021年度トピックス「J-クレジット創出の取組み」	9
〈具体的な取組み内容〉	
環境経営方針1 脱炭素社会への貢献	10
環境経営方針2 循環型社会への貢献	11
環境経営方針3 自然共生社会への貢献	12
環境経営方針4 社会との協調	14
環境経営方針5 環境管理の推進	17
代表者による全体の評価と見直し・指示	18
2022～2024年度環境経営目標・環境経営計画	18



春の由布岳と大分川（大分県）

## はじめに

### 「自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して、社会に貢献します」

当社は、この企業理念の実現に向け、森林整備事業や造園・緑化事業、官公庁が所管する各種施設の指定管理者業務など、自然環境の保全にかかわる事業活動を展開し、緑を通じた社会貢献に努め、持続可能な社会の実現に取り組んでまいりました。

脱炭素社会の構築を目指した世界的な潮流の中、継承した智慧を深化させ、更に新たな事業領域を探索しながら、今後も事業活動と環境経営とを一体のものとして、地域課題の解決に歩みを進めてまいります。

2022年8月

代表取締役社長 中島 豊

#### 〈経営方針〉

##### 【企業理念】

- 1 自然を守り、  
緑豊かな環境づくりを通して、  
社会に貢献します。
- 2 技術力を高め、  
すぐれた製品とサービスを提供し、  
お客さまの信頼にこたえます。
- 3 創造力と行動力をつちかい、活気  
溢れる企業風土をつくります。

##### 【行動指針】

- 1 人と自然の調和をもとめ、  
快適環境づくりを考えます。
- 2 知性と感性を磨き、  
技術の向上につとめます。
- 3 時代の声、お客さまの声を  
今日の仕事にいかします。
- 4 柔軟な発想で新しい価値を創造し、  
つねに可能性にむかってチャレン  
ジします。
- 5 信頼と協調につとめ、  
活力ある明るい職場をつくります。

制定日：1991年1月1日

#### 〈環境経営方針〉

##### 【基本理念】

九州林産株式会社は、「自然を守り、緑豊かな環境づくり」という企業理念のもと、すべての事業活動において環境保全意識の重要性を認識し継続的改善に取り組み、持続可能な社会の構築を目指します。

##### 【基本方針】

- 1 脱炭素社会への貢献  
脱炭素社会の実現に向け、節電、節水、エコドライブ、高効率機器の活用等による省エネルギー・省資源化を推進し、事業活動に伴う温室効果ガス排出抑制に努めます。
- 2 循環型社会への貢献  
廃棄物の再資源化、グリーン購入の徹底、伐捨間伐材などの未利用資源の有効活用等に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。
- 3 自然共生社会への貢献  
事業活動により環境に与える影響を低減するため、生物多様性への配慮や化学物質の使用抑制などに取り組み、自然と共生できる社会の構築に貢献します。
- 4 社会との協調  
環境経営情報を積極的に公開し、ステークホルダーとの連携・協調により社会とのコミュニケーションを図ります。
- 5 環境管理の推進  
環境関連法規の遵守はもとより、環境関連情報の共有化を図り、全社一体となって環境マネジメントシステムの品質向上に努めます。

制定日：2007年12月14日

改正日：2022年 5月16日

# 沿革 ～ 環境と共に歩んだ歴史 ～

## ■九州電力社有林と当社の歩み

### 年 表

…九州林産が取り組んだ項目

九州電力の社有林は、今を遡ること約1世紀、1919年に「永久に消えない電灯を灯したい」との思いから、同社の前身である九州水力電気が水力発電の水を安定的に確保する「水源涵養林」を目的に山林育成を開始したのが始まりです。

九州の尾根地帯、大分県玖珠川と大分川上流の分水嶺の原野での造林事業では、高冷地で痩せた土地に適した樹品種の選定や植栽密度の工夫など、試行錯誤を重ねながら事業を着実に進め、今日の社有林の礎が築られました。

現在、九州電力社有林は、大分、熊本、宮崎の3県で計約4,447ヘクタールの緑豊かな森林へと成長し、CO<sub>2</sub>の吸収や生物多様性の保全などで、持続可能な循環型社会の形成に貢献しています。

- 1919 • 九州水力電気が原野造林に着手
- 1923 • 自社生産苗による植林開始
- 1942 • 九州水力電気を受け継いで、九州配電が発足
- 1949 ●九州配電の林業部門から分離・独立して、九州林産が発足し、九州電力社有林の森林経営を受託
- 1951 • 電力再編成により九州配電から九州電力となる
- 1960 • この頃、戦後の拡大造林政策により、1920年頃に植林したスギ・ヒノキ林の伐採による木材出荷と新たな植林の最盛期を迎える
- 1965 ●電柱が木製からコンクリート製に移行し、社有林としての電柱材供給の役割終了を機に、当社は造園・園芸事業へ参入
- 1973 ●工場立地法の制定を機に、当社は九電グループ内での緑化・環境保全業務の実績を踏まえ、グループ外の造園工事や工場緑化へと事業を拡大
- 1995 • 山下池山林が「水源の森百選」に認定
- 2005 ●九州電力社有林がFSC®森林認証（FSC®CO18956）を電力会社として初めて取得  
●くじゅう坊ガツル湿原がラムサール条約へ登録
- 2008 ●新たな事業領域として指定管理者制度へ参入（現在6施設を運営）  
●EA21認証取得（本店）、翌年、全社認証を取得
- 2011 • 大分県の「次世代の大分<sup>もり</sup>森林づくりモデル林」の第1号に山下池山林が指定される。翌年、飯田山林がモデル林第5号に指定。翌々年、平家山林がモデル林第15号に指定される
- 2014 ●「生物多様性ガイドライン」策定  
●環境教育の場として、九州電力社有林内に「くじゅう九電の森」を整備
- 2016 ●九電みらい財団と本格的な環境教育への取り組み開始
- 2019 • 九州電力社有林が100周年を迎え、上賀茂神社（京都市）の鳥居の建替え用として、樹齢100年のヒノキを奉納
- 2020 ●森林資源の見える化サービス（森林資源の調査）を開始
- 2021 ●九州電力社有林でのJ-クレジット創出取組み開始



約90年前の苗木の植え付けの様子



公園整備  
(玄海町次世代エネルギーパーク)



FSC®森林認証材  
(FSC®CO18956) を使用  
したテーブル



くじゅう九電の森での環境教育



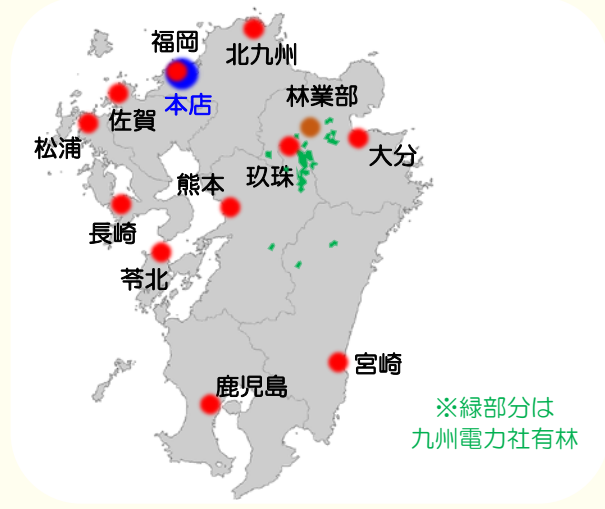
福岡県護国神社  
樹木枯枝除去及び樹林内伐採工事

■ 概要

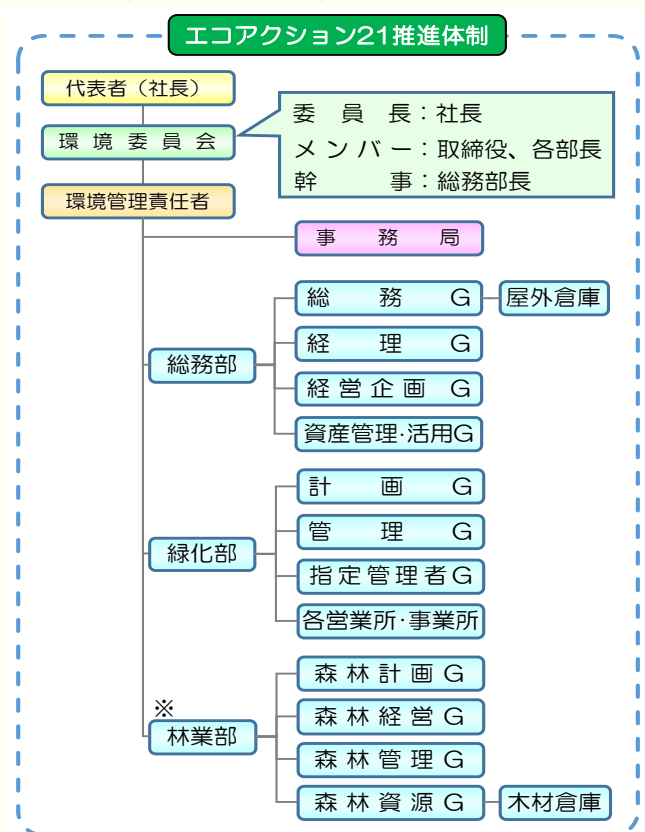
(社名) 九州林産株式会社  
 (代表者) 代表取締役社長 中島 豊  
 (資本金) 4億9000万円  
 (事業所・規模・所在地)  
 (売上高) 34億8,000万円

(事業活動) 土木事業、造園事業、園芸事業、とび・土工事業、建築事業、造林事業、木材事業、不動産賃貸業  
 (許認可) 国土交通省大臣許可 特28-第1615号  
 (・特定 造園工事業 ・特定 土木工事業)  
 (・特定 とび・土工事業 ・特定 建築工事業)

対象事業所	事業規模		所在地
	従業員数	のべ床面積	
本店	33人	1,894.94㎡	福岡市南区野間3丁目7番20号
福岡営業所	6人		
林業部	31人	1,028.17㎡	由布市湯布院町中川1815-1
北九州営業所	6人	39.77㎡	北九州市小倉北区米町2丁目2番1号(新小倉ビル)
大分営業所	4人	79.20㎡	大分市大字青崎4番1
玖珠事業所	2人	38.00㎡	玖珠郡九重町大字田野字中村下野1672-61
佐賀営業所	4人	100.43㎡	東松浦郡玄海町大字今村字浅湖4112-1
長崎営業所	4人	88.00㎡	西彼杵郡長与町高田郷1809-1
松浦事業所	2人	132.50㎡	松浦市志佐町白浜免字楼楼田302
熊本営業所	5人	56.70㎡	熊本市東区健軍2丁目18番26号(入大ビル2F)
苓北事業所	4人	116.28㎡	天草郡苓北町大字年柄字苓陽1091-6
宮崎営業所	4人	101.31㎡	宮崎市江平西1丁目3番6号(第8丸三ビル841号)
鹿児島営業所	6人	106.90㎡	鹿児島市下荒田3丁目24番7号
合計	111人	3,782.20㎡	



■ 組織図・対象範囲



※2022.4に林業部の組織を一部変更

■ 主な資格取得者一覧

造園施工管理技士(1・2級)	47名
土木施工管理技士(1・2級)	46名
造園技能士(1・2級)	8名
建築士(1・2級)	2名
測量士	1名
公園管理運営士	1名
林業技士	9名
森林情報士(1・2級)	5名
森林管理士	9名
環境教育インストラクター	5名
ピオトープ管理士(1・2級)	8名
森林インストラクター	5名
森林施業プランナー	3名
衛生管理者	4名
建設業経理士(1・2級)	16名

■ 環境管理責任者及び担当者

(責任者) 総務部 経営企画グループ長 徳留 雅大  
 (担当者) 総務部 経営企画グループ 林 香那美 小久保真理

(連絡先) 092-562-3014

(URL) <https://www.q-rin.co.jp>



■ 当社の環境経営とSDGs

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。当社はSDGsに関連する環境経営に取り組んでおり、今後も事業活動を通して、社会課題の解決に貢献していきます。



# 事業活動と環境経営の融合を目指して

当社は、中期経営計画において、2030年のありたい姿「緑を育み未来を創る～お客様から信頼・感謝される緑の」に向けた「新たな価値の創造」「緑豊かな環境づくり」「人を活かす」の3つの使命を確認しました。

このうち「緑豊かな環境づくり」の使命達成に向けては、「環境を守る」「緑をつくる」「森を育て活かす」の観『1 脱炭素社会への貢献』『2 循環型社会への貢献』『3 自然共生社会への貢献』『4 社会との協調』『5 環境管理』

## 1 脱炭素社会への貢献

### 〈適正な森林管理によるCO<sub>2</sub>吸収〉

当社は、FSC®森林認証（FSC®CO18956）に基づく森林管理により、持続的な経営と環境配慮との両立に努めています。適正な間伐により林内環境の改善を図ることは、樹木の生長量の増加を促し、森林のCO<sub>2</sub>吸収力の最大化にもつながります。

- ・九電社有林面積：4,447ha（PayPayドーム 約630個分）
- ・2021年度生長量：38,982m<sup>3</sup>（人工林のみ）
- ・2021年度CO<sub>2</sub>吸収蓄積量：131.8万 t

### 〈木材のカスケード利用によるCO<sub>2</sub>固定〉

2021年度の木材生産量→12,394m<sup>3</sup>

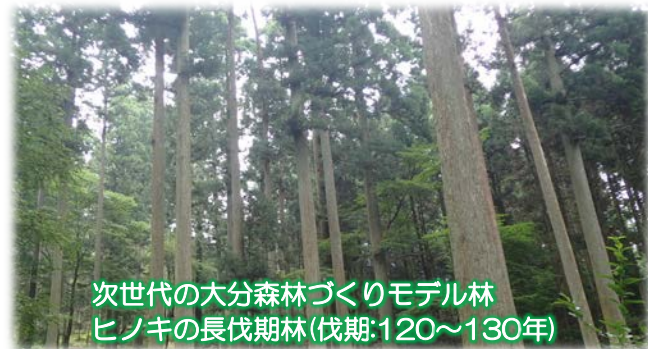


建築材

合板材

パルプ材

端材・末木等はバイオマス燃料として活用



次世代の大分森林づくりモデル林  
ヒノキの長伐期林(伐期:120~130年)

## 4 社会との協調

### 〈九電社有林での環境学習〉

当社は、九電みらい財団と協働し、次世代層を中心とした環境教育を展開しています。森林の役割や環境配慮の重要性を講話やフィールドワークを通じ、参加者の記憶に残る体験となるよう工夫しています。



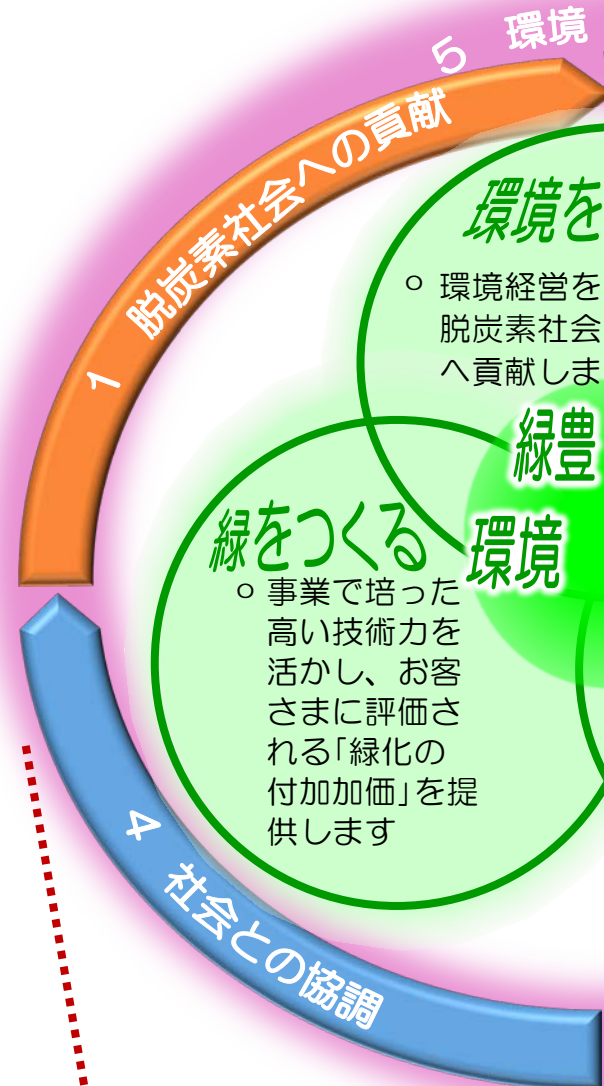
林業体験

### 〈多彩なコミュニケーション活動〉

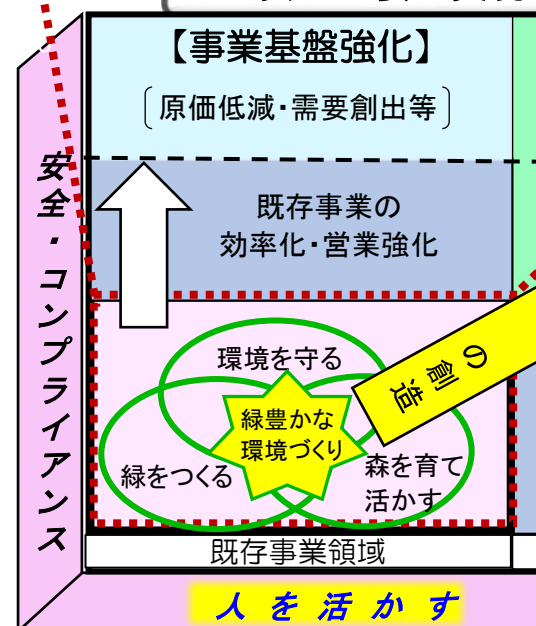
当社は、自治体から受託する指定管理者施設にて、自然観察会や収穫祭、里山ボランティアなど多彩な環境イベントを開催し、地域の皆様との交流に努めています。



収穫体験



## ありたい姿の実現



パートナーを目指して～」を掲げ、その実現

点から、環境経営の基本方針である『環境経営の推進』を土台とした事業活動を展開してい

管理の推進

2 循環型社会への貢献

守る  
通じて  
の実現  
す  
かな  
づくり

森を育て活かす

- 豊富な森林経営管理の経験や技術力を活かし、林業の成長産業化に貢献します

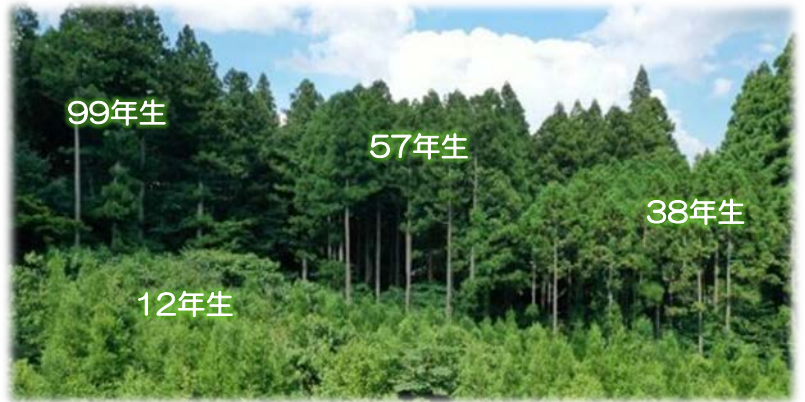
3 自然共生社会への貢献

## 2 循環型社会への貢献

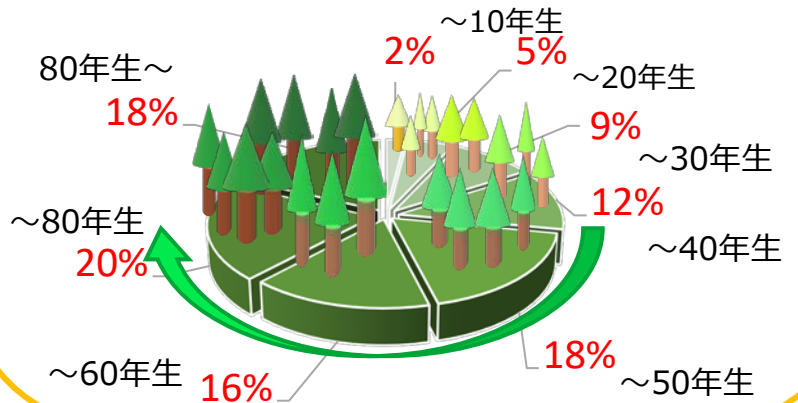
### 〈持続可能な森林経営〉

当社は、九州電力社有林において、苗木生産から植栽・育成管理・伐採・加工・販売と一貫した森林経営を実践しており、計画的な資源循環を通じ、木質資源の安定供給に努めています。

(標準伐期：61年生以上)



九州電力社有林林齢別面積割合



## 3 自然共生社会への貢献

### 〈環境緑地形成と環境保全対策〉

当社は、環境や景観に配慮した緑地形成により、自然共生社会への貢献に努めています。

一例として都市緑化や屋上緑化をはじめ、自然環境復元、公園整備などにも取り組んでいます。



### (使命達成)のイメージ

#### 【成長分野への資源投資】

『未来洞察の視点』からの成長戦略のアイデア発掘

高収益事業

保有技術を活かした営業展開

#### 【外販拡大】

人材確保・育成

事業拡大領域

(すべての土台)

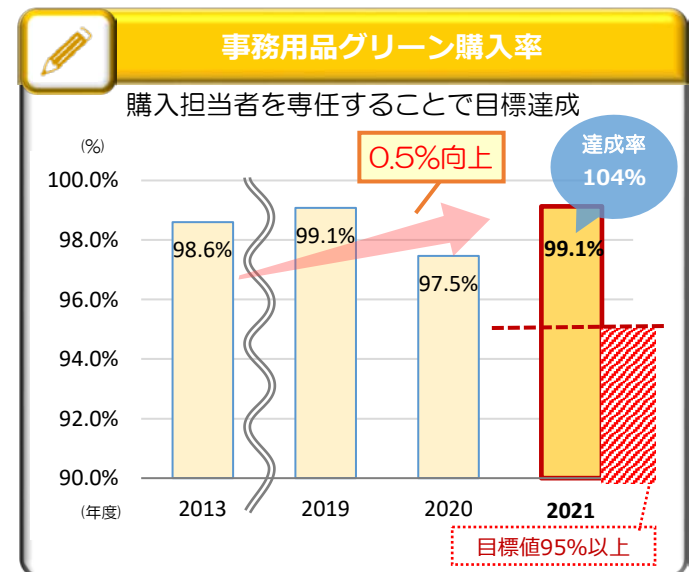
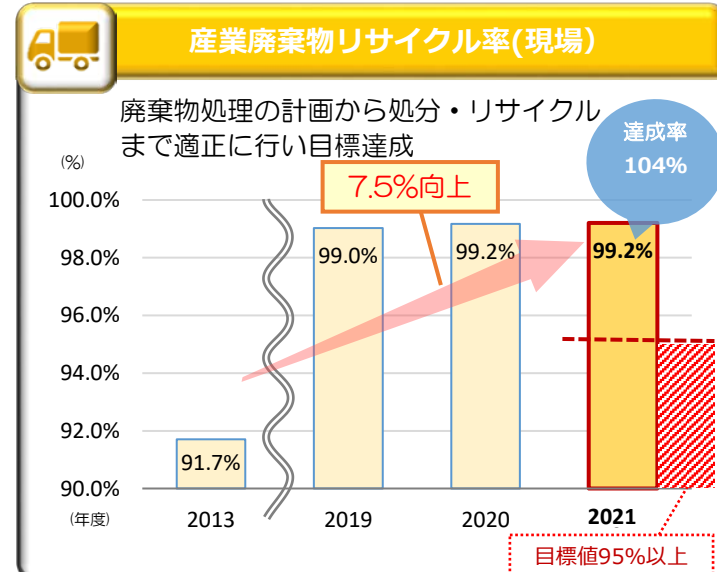
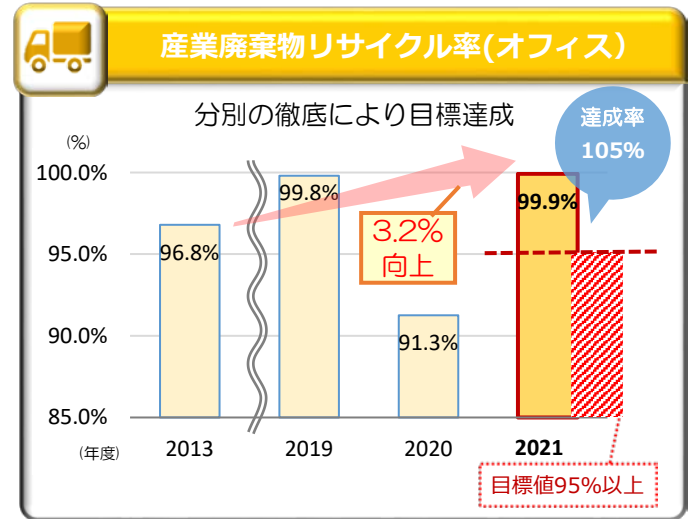
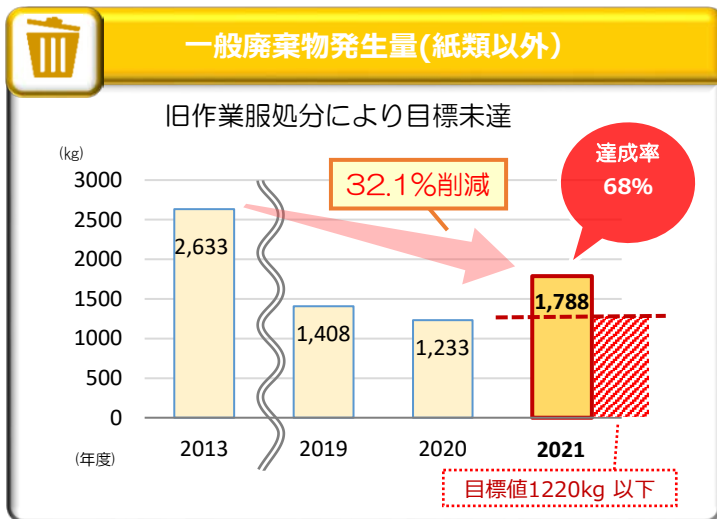
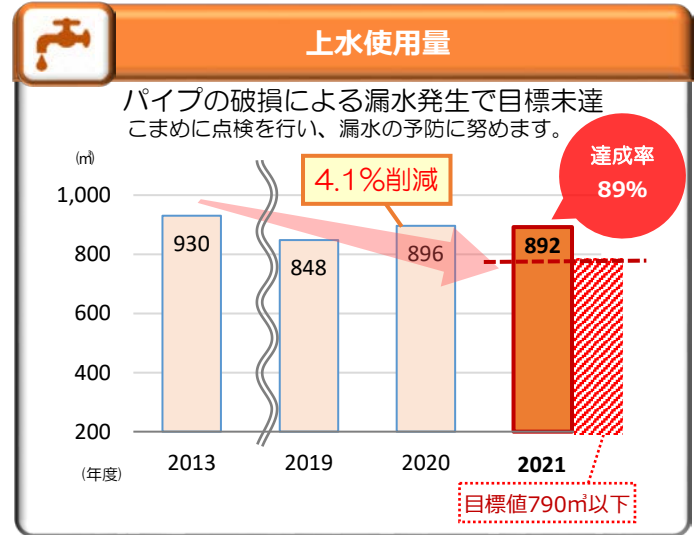
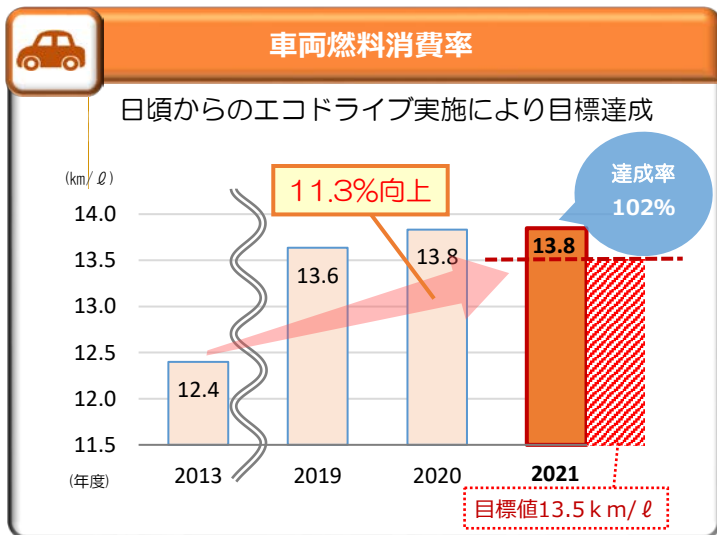
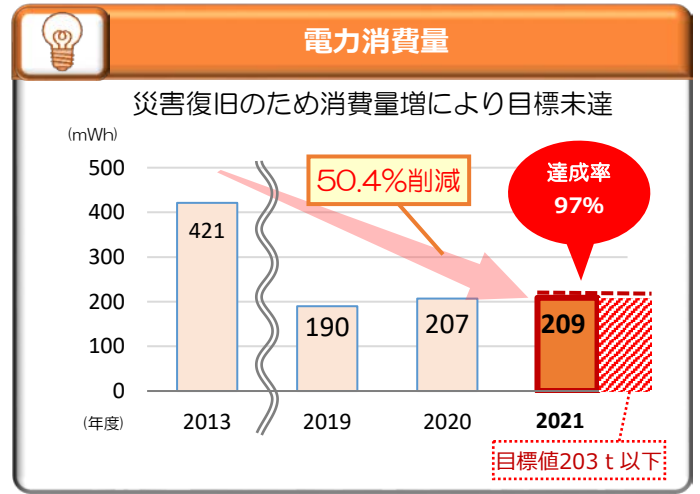
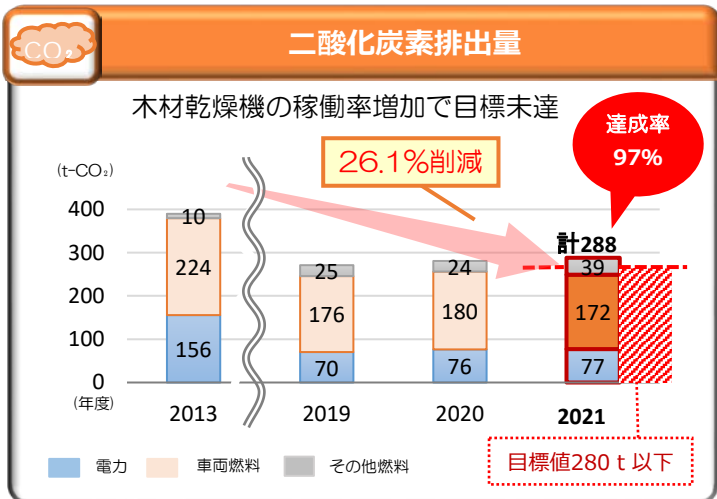
# 2021年度環境経営目標・実績・評価※1

環境経営方針	環境経営目標		実績	※3 実績 評価	2021年度		取組 評価		
					主な取組み内容				
1 脱炭素社会への貢献	温室効果ガスの排出抑制への着実な取組み	事業所における省エネルギー活動の推進	二酸化炭素排出量 (単位:t-CO <sub>2</sub> ) ※2 	280 以下	288	×	・LED電球への切替 ・断熱塗装	○	
		運輸面でのCO <sub>2</sub> 排出抑制の推進	電力消費量 (単位:mWh) 	203 以下	209	×	・冷房28℃、暖房19℃に室温を設定 ・昼休みの消灯	○	
			車両燃料消費率 (単位:km/ℓ) 	13.5 以上	13.8	○	・燃費ランキング表彰を実施 ・エコドライブの実施	○	
	事業所における省資源活動の推進	上水使用量(単位:m) 	790 以下	892	×	・ポットの余り水を掃除や植物の水やりに活用	○		
	オゾン層の保護	規制対象フロン回収徹底と代替化への取組み					・空調設備の点検を各所で実施	○	
電化の推進	オール電化の推進 社有車のEV化推進					・オール電化PR資料を設置 ・社有車のEV化を検討	○ ○		
2 循環型社会への貢献	廃棄物のゼロエミッション活動の展開	廃棄物・古紙リサイクル率の維持・向上への取組み	一般廃棄物発生量(紙類以外)(単位:kg) 	1,220 以下	1,788	×	・一般廃棄物の分別徹底によるリサイクル促進 ・古紙リサイクルの徹底	○	
		環境リサイクル事業の積極的活用	産業廃棄物リサイクル率(リサイクル量/発生量)(単位:%)	オフィス・工場 	95.0 以上	99.9%	○	・産業廃棄物の分別徹底 ・廃棄物の再資源化	○
			現場 	95.0 以上	99.2%	○	・産業マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底	○	
	循環型社会形成に寄与する事業活動の着実な展開	間伐材有効利用率(単位:%)		34.0 以上	46.9%	◎	・未利用材の利用拡大に向け、販路拡大に努力	○	
	グリーン購入の徹底	事務用品(紙類、文具類)とそれ以外のグリーン購入の徹底	事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)(単位:%) 		95.0 以上	99.1%	○	・電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 ・事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底	○
3 自然共生社会への貢献	環境保全の推進	自然共生社会の形成に寄与する事業活動の展開	緑化工事受注件数(単位:件)	190 以上	238	◎	・積極的な提案営業が受注実績に結びつき、緑豊かな社会に貢献	○	
		生物多様性への取組み	希少種の保全活動				・希少種巡視活動を12回実施(27種を確認)	○	
	環境上の事故及び緊急事態への準備・対応	事業における環境リスクの低減					・施業前にチェックリストで生物多様性に配慮すべき事項を把握・確認	○	
		化学物質使用量の削減					・代替物質の活用などにより、極力PRTR制度対象物質を抑制	○	
		環境上の事故及び緊急事態への準備・対応					・環境上の緊急事態を想定した訓練の実施	○	
4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	環境情報の積極的な公開				・環境経営レポートを営業活動時や就職説明会などで配布(95部) ・ホームページでのレポート公開	○		
	地域における環境活動の推進	地域に密着した環境活動への取組み				・社内外の清掃活動、計16回に延べ82人の社員が参加	○		
5 環境管理の推進	EMSの自立運用	事業特性等に応じたEMSレベル向上への取組み				・内部監査(運用業務支援)を6箇所を実施	○		
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	環境関連データの確実な把握と実効性の高い目標設定				・環境関連データの全社大での確実な把握に努めた	○		
		環境経営目標等の達成に向けた各所での効果的な取組み				・環境経営目標の達成状況及び環境経営計画を的確に活用し、取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施	○		
		環境会計データの確実な把握と活用				・環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表	○		
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施・参加				・九州電力が主催する各種環境教育へ積極的に参加	○		
		九電グループ情報ネットワークの活用による環境情報の共有化				・社外情報収集のため、九電グループ環境経営推進部会へ2回参加	○		
環境関連法令の遵守徹底	環境法規制等の特定				・環境関連法規等を特定し、遵守状況の洗い出し(棚卸し)を確実に実施	○			
	環境法規制等遵守状況の確認・評価				・環境法令遵守状況に問題が無いことを確認	○			

※1 黄色の項目は現場の数字を除く ※2 九州電力の2019年度調整後排出係数(0.370kg-CO<sub>2</sub>/kWh)により算出 ※3 ◎: 目標達成率110%以上の大幅な目標達成項目 ○: 目標達成項目、×: 目標未達項目



# 実績グラフ(2013年度を基準とした実績・効果)



# 環境パフォーマンス（これまでの取組み成果）

## ■環境保全対策に伴う環境負荷削減量とコスト削減額

※現場の実績含む

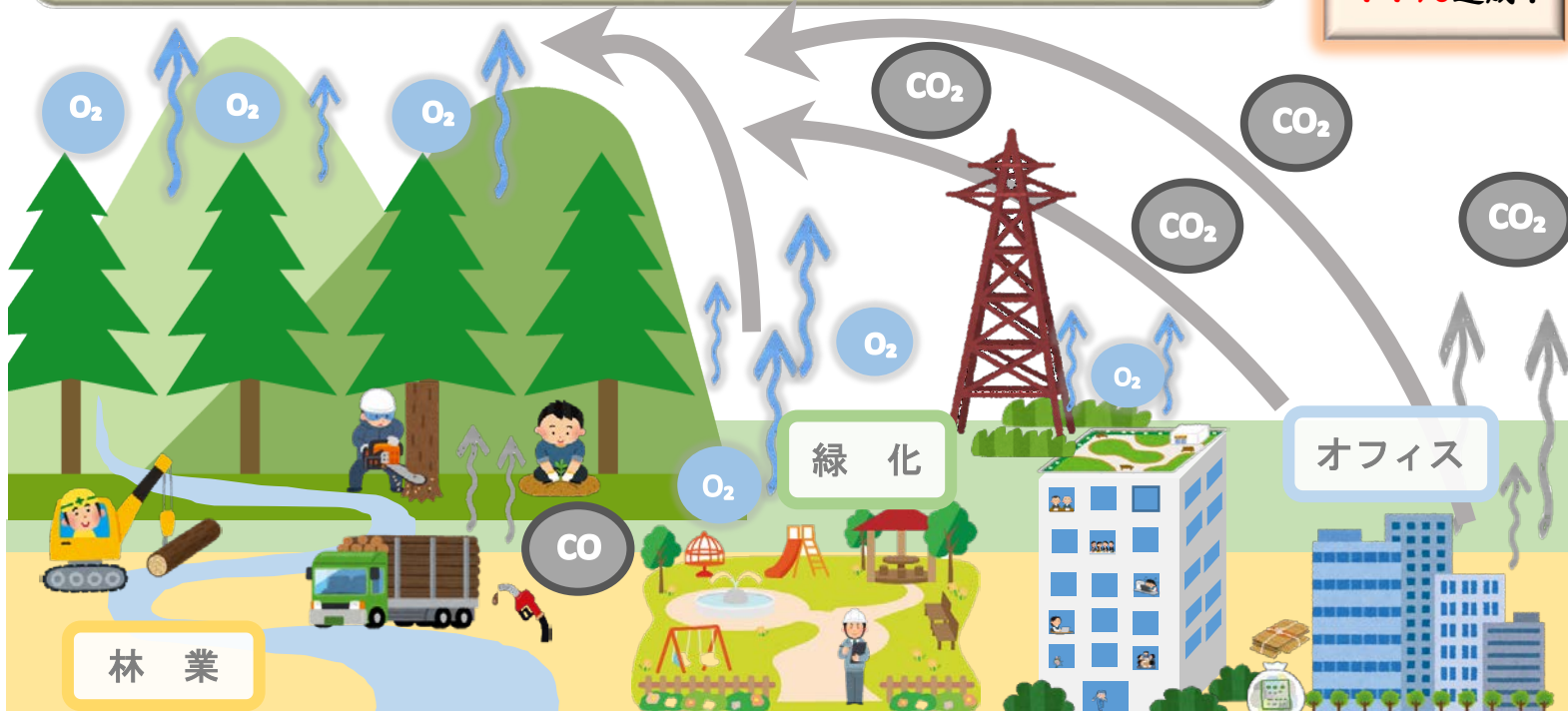
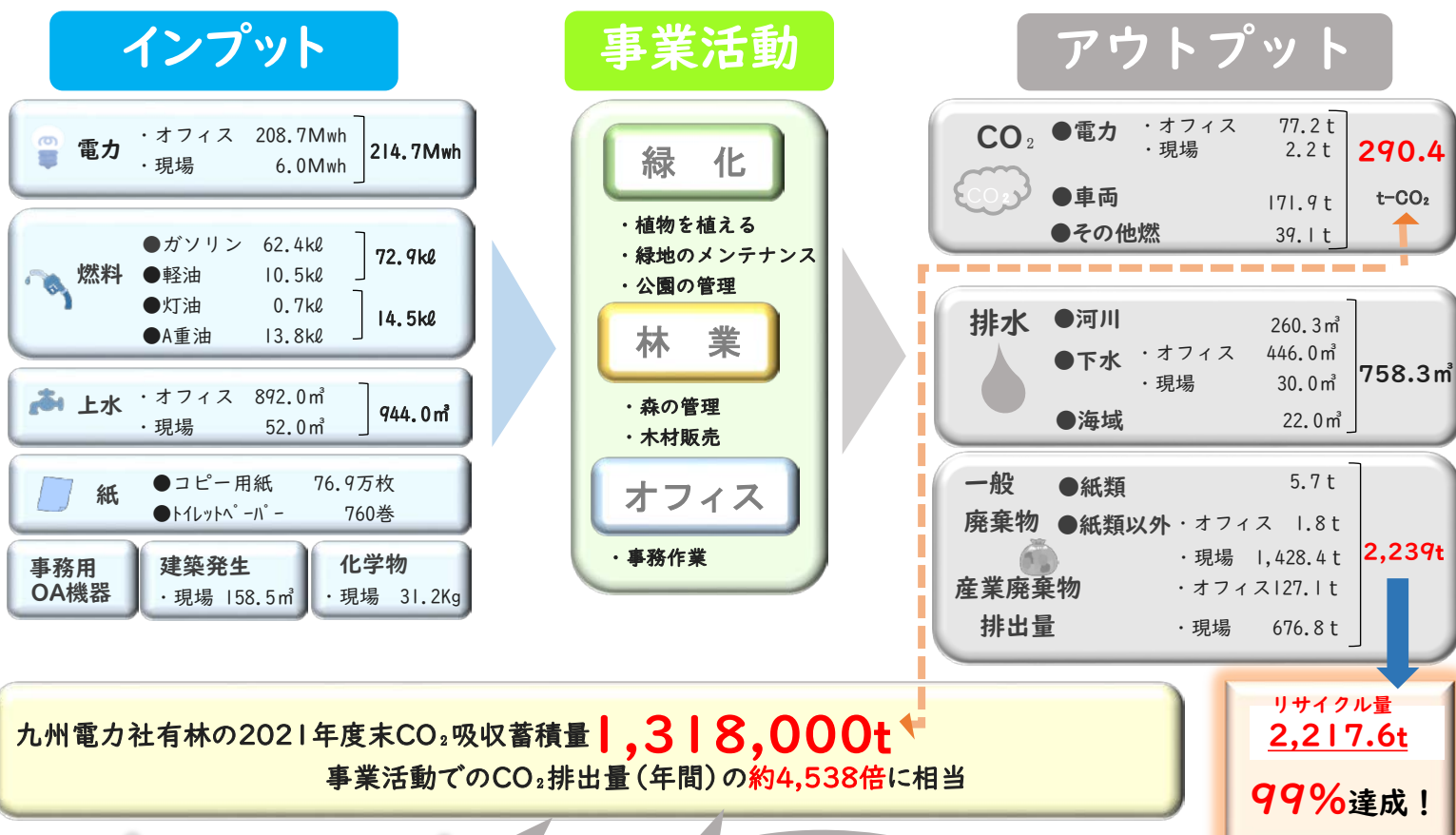
分類	単位	物質 量					削減量 (2013年差)
		2013 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度		
電力	mWh	430.0	201.4	214.0	214.7	215.3	
車両燃料	kℓ	93.9	74.3	76.1	72.9	21.0	
その他燃料	kℓ	3.8	9.3	9.1	14.5	-10.7	
水道	m³	930.0	906.0	947.0	944.0	-14.0	
廃棄物処分	t	384.0	44.9	48.3	22.1	361.9	
廃棄物リサイクル	t	3,776.0	1,464.6	1,643.3	2,217.6	1,558.4	
合計							

分類	金 額 (単位：千円)					削減額 (2013年差)
	2013 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度		
電力	12,087	5,662	6,016	6,035	6,052	
車両燃料	15,146	12,038	12,342	11,861	3,285	
その他燃料	308	711	694	1,096	-789	
水道	392	381	399	397	-6	
廃棄物処分	384	240	233	395	-11	
廃棄物リサイクル	4,174	4,274	6,087	7,205	-3,032	
合計	31,857	23,149	25,596	26,757	5,100	

2021年度は、2013年度比で、**5,100千円**削減!!



## ■マテリアルバランス（2021年度）



# 2021年度トピックス「J-クレジット創出の取組み」

## J-クレジット創出・創出支援への取組み

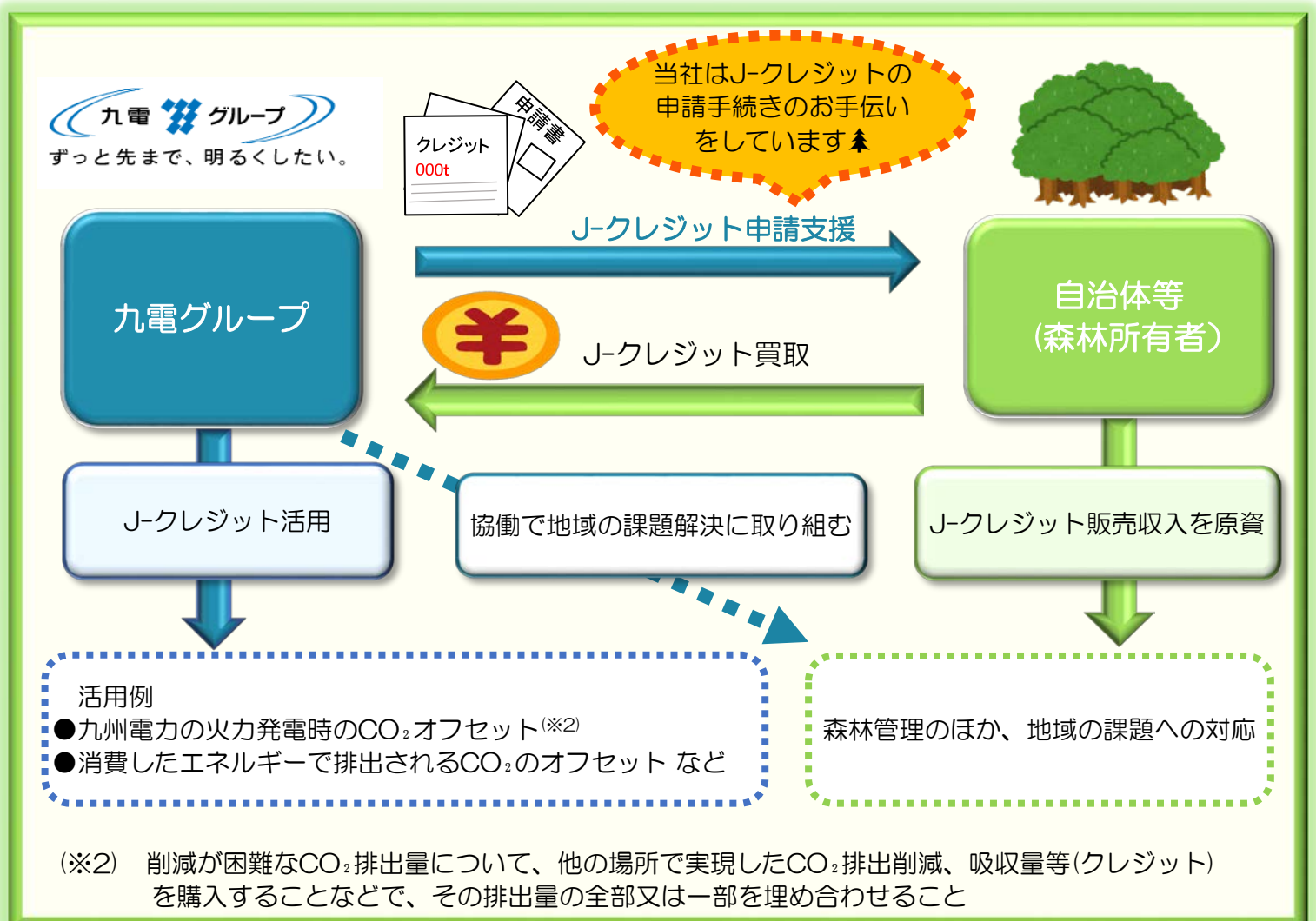
当社では、九州電力社有林において国際的な「FSC®森林認証（FSC®CO18956）」を取得し、持続可能な森林経営を行っています。この知見を活かし、J-クレジット【「適切な森林管理によるCO<sub>2</sub>吸収増加量」を「クレジット」（環境価値として売買可能）として国が認証する制度】の創出に向けた「森林管理プロジェクト」に取り組んでいます。

### 【プロジェクト概要】

九州電力社有林において、森林経営計画に沿って適切な森林施業・森林経営を実施することにより、二酸化炭素の吸収量を確保する活動を行う。



また、当社では、自治体等が所有する森林資源からのJ-クレジット創出の申請支援も行っています。



## 文化記念公園プールの水質管理法の見直しによる上水使用量削減

指定管理者施設の北九州市立文化記念公園体育施設ではプールを運営しています。2020年度から、水質管理方法を全てマニュアル化し、作業を統一化しました。また、専属の水質管理担当者を配置し、きめ細かな水質管理を行うことで、キレイな水質を保ち上水使用量の大幅な削減に成功しました。

ろ過機

### 水道使用量と水道料金

年	水道使用量 (m³)	水道料金 (円)
2019	~5,000	~3,500,000
2021	2,358	~1,800,000

2,358m³削減！

約170万削減！

50Mプール

## LED電球への切替

本店の電球をLED電球に切り替え、従来の電球に比べ節電出来るとともに、オフィスが明るくなりました。

Before

After

外壁のこんなところもLED化！

## 断熱塗装

本店屋上の断熱塗装・防水工事を行いました。遮熱効果により、室内が夏場は涼しく、冬場は暖かくなりました。

Before

After

## 燃費ランキング

北九州営業所では、車両燃費率向上のため、独自に表彰制度を設け、所員全員で燃費改善に取り組んでいます！



🌸 **ホンダ アクティ** 🌸

EA21目標燃費 12.7km/l

**今年はYOUが頼りで賞**

2021年度 月給油間燃費は  
平均 **14.9km/ℓ** **1位**

🌸 エコドライブを心がけましょう！！ 🌸

2020年度 平均 13.7km/ℓ

🌸 **ニッサン ティーダ ラティオ** 🌸

EA21目標燃費 12.7km/l

**あらのもっとイケるハズなので賞**

2021年度 月給油間燃費は  
平均 **14.4km/ℓ** **3位**

🌸 エコドライブを心がけましょう！！ 🌸

2020年度 平均 17.1km/ℓ

## ■ 一般廃棄物の分別

廃棄物のリサイクル率向上と発生量抑制に向け、各事業所が所在する市町村の基準に沿った分別の徹底を環境経営計画に掲げ、取組みを行っています。



本店紙類・産廃置場

空のダンボールは必ずつぶしてください。  
ダンボールに古紙を入れる場合は、極力詰め込むようにしてください。  
※経費削減につながります！  
EA21事務局

段ボールいっぱい  
いっぱい古紙を詰め込みます！



ゴミ箱(ペットボトル・アルミ缶・スチール缶)

分別もしっかり行っています♪



機密文書廃棄専用袋

機密文書を含む古紙  
リサイクル率100%の取組が定着しています

## ■ 廃棄物の再資源化

指定管理者として管理運営している各施設では、ゴミの再資源化に努めています。

日々の緑地管理業務で発生する草本類や竹類、農園から出る残渣などの再利用により、ゼロエミッションを目指しています。



ブドウ堆肥



ミカン堆肥

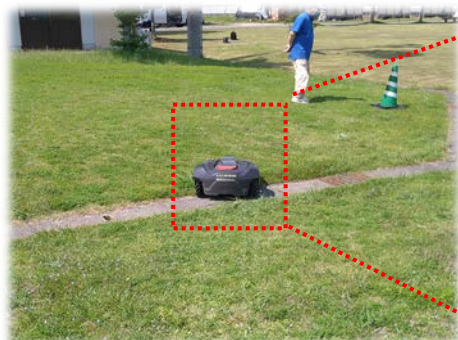


収穫♪♪♪

残渣を堆肥化し、園内の畑等に散布します。

## ■ ロボット芝刈り機の導入

ロボット芝刈り機は人手をかけず芝の管理が出来、廃棄物の抑制やコスト削減に繋がるなど、様々なメリットから実証試験をした結果、2022年度から当社が管理する今津リフレッシュ農園や夜須高原記念の森へ導入しています。



ロボット芝刈り機

**導入のメリット**

- ・芝が伸びる前に刈るため、集草作業が不要＝ゴミが出ない 🗑️
- ・ロボットが切った芝は、そのまま土に還り、自然と堆肥化 🌿

当社は、多様な生物生育環境の保全と事業活動がもたらす生態系への影響低減に向け、効果的な生態系の維持・回復対策の手法や手順、実施スケジュール等を「生物多様性保全ガイドライン」として取りまとめ、活動の実施とともに、データの収集・分析、改善策の検討・提言にも取り組んでいます。

## ■ 希少種の保全活動（九州電力社有林内）

### 〈巡視活動〉

九州電力社有林内に生息する希少植物の定期的な巡視活動を実施しています。

### 巡視活動で確認された希少植物 （2021年度）



- ・アギナシ
- ・ヒメユリ
- ・サギソウ
- ・ホザキノミミカキグサ
- ・シラヒゲソウ
- ・トキソウ

#### [その他]

- ・クサレダマ
- ・ケナガシロワレモコウ
- ・コタヌキモ
- ・サウギキョウ
- ・タチカモメツル
- ・チョウセンスイラン
- ・ノハナショウブ
- ・ヒメシロネ
- ・ミスオトギリ
- ・ミスチドリ
- ・ミズトンボ
- ・モウセンゴケ

### 〈定点写真観測〉

くじゅう地域の代表的な希少種であるミヤマキリシマと湿地帯の希少植物を定点観測・調査しています。



シヤクガの幼虫による食害発生…

開花量回復 保護活動の成果！

### 〈定点植生調査〉

湿地帯の希少植物群生地においては、コドラード（区画）法による植生調査を行っています。サギソウ等湿生植物の個体数調査の結果、2021年度においても湿地帯の植生が維持されていることを確認できました。



1m×1mのコドラード法

サギソウ

希少植物を保護するために、毎年秋に草刈を実施しています。

植生調査を行う林業部安仲社員

### 〈希少種ミヤマキリシマの保護活動参画〉

ミヤマキリシマは、近年ノリウツギなど成長の盛んな樹木から圧迫され植生範囲が減少傾向にあります。

このため、当社は九電みらい財団とともにボランティアスタッフとして、ノリウツギなどの伐採を指導しミヤマキリシマの植生回復に努めています。



チェーンソーで伐倒作業をする  
林業部日野グループ長



参加者とともに伐採作業を行う  
林業部酒井社員（右端）



他樹種のノリウツギを伐採し、  
ミヤマキリシマの植生が回復しました❁



### ■ 生物多様性に配慮した施設運営（かなたけの里公園）

当社が、2014年度から管理業務を開始した、指定管理者施設の「かなたけの里公園」では、多様な植物や生き物と人が共生できる環境づくりに取り組んでいます。特に「生物多様性への取組み」については、各分野の専門家などを運営スタッフとして採用し、次世代層への教育活動や多様性保全環境づくりなどを、管理運営の中で提案・実施しています。

#### 〈観察会の開催〉



里山観察会（冬）



オンライン観察会

コロナ禍の影響により、オンライン観察会等も行いました。

#### 〈生物多様性に配慮した管理〉

生物多様性に配慮した管理手法を提案し、福岡市から採用されています。

今後も、「生物多様性への取組み」と「地域との協働」をキーワードに改善提案を継続し、地域の環境保全とお客さまへのサービス向上を目指していきます。



自然生態系保全研修



湿地帯保全工事



当社では、九州電力社有林の管理や官公庁所管の公園・農園の指定管理者業務の中で、地域の方々や地場企業、教育関係者、自治体の方々との協働による環境教育に取り組んでおり、多くの皆さまとの体験を通じた環境コミュニケーションを展開しています。

■「くじゅう九電の森」における環境教育

今年もコロナの影響により、開催回数は5回となりましたが、のべ200人にご参加頂きました。当社は、九電みらい財団とともに、九州電力社有林を舞台とする環境教育に取り組んでいます。「森の役割」を伝え、自然を大切にする心を育む教育を実施することを目的としています。

〈学んだことを体験し理解を深める〉

親子向けに森についての座学や体験型学習を実施しました。



森の工作



森の役割実験



林業体験の説明

〈コロナ禍における、デジタル環境教育〉

2021年度は、九電みらい財団主催のコロナ禍を考慮した「デジタル環境教育」にも林業従事者として携わりました。くじゅう九電の森から、リアルタイム中継で小学校と繋ぎ、森の天気、森の適切な管理方法や間伐の方法を説明しました。木を切る体験は、九電みらい財団さんのVR体験で、コロナ禍でも環境の事を楽しく学んで頂きました。



LIVE



ライブ中継で小学生に説明する藤木G長と戸坂社員

小学生との質疑応答



間伐の方法の説明



VR体験



〈公益財団法人九電みらい財団〉

九電みらい財団では、2016年5月の設立以来、九州の豊かな自然環境の保全活動や環境教育活動、次世代育成支援活動を通じて、九州地域に広く貢献することを目的とした事業を展開しています。

当社は同財団と協働し、九州電力社有林を舞台に、林業体験や環境諸活動へのサポートを行っています。



九州の未来のために。  
豊かな自然環境と子どもたちが輝く未来を。





## 事業活動を通じた地域社会との協調

### 〈指定管理者施設における取組み〉

当社は、《協働》をテーマに地域に根付いた公営の公園・農園の管理運営を行っています。各施設では、体験学習や・ボランティア活動・収穫祭・スポーツ大会など、様々なイベントを開催しています。



### 〈背振幹線豪雨被害復旧〉

豪雨被害にあった背振幹線下の陥没箇所の復旧工事を行いました。

木も柵も元通りに



### 〈電気ビル歩道プランターの植え替え〉

福岡市電気ビル付近の歩道の花の植え替えを行いました。道行く人の目の保養になりますように♪



植え替え中



## ■ 地域社会との協調

### 〈4社合同清掃〉（九州電力総合研究所・九州高圧コンクリート(株)・九電テクノシステムズ(株)・九州林産(株)）

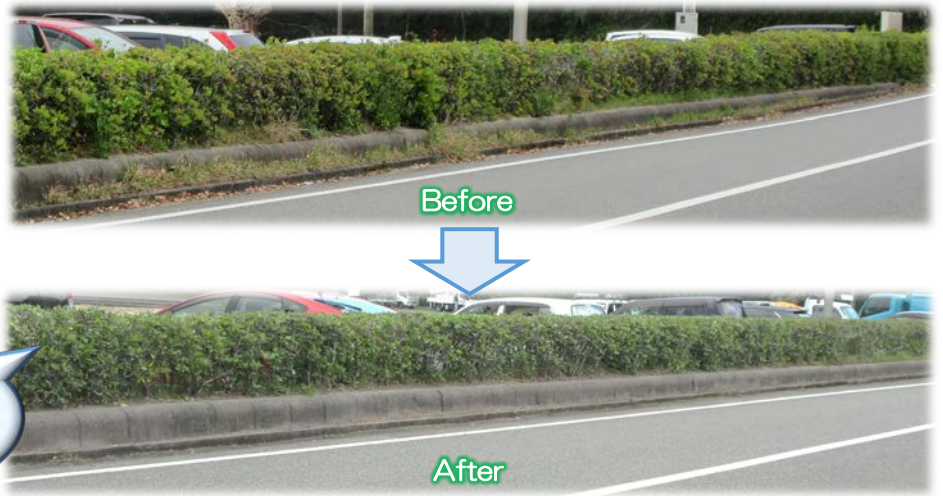
2022年3月に近隣の九電グループ会社合同で、福岡市南区塩原中央公園の清掃活動を実施しました。コロナ禍のため、人数を制限して行い、当社からは常務取締役をはじめ、計4名が参加しました。



(右)九州林産株式会社  
(1列目)加藤社員・植村社員  
(2列目)平林常務取締役・木道G長

### 〈本渡海水浴場清掃活動〉

第37回天草国際トライアスロン大会スタート会場付近の樹木の剪定、海岸清掃のボランティア活動を行いました。



茶北事業所  
成田所長

車道沿いの雑草  
もスッキリ☆

### 〈緑ふれあい運動〉

2009年度から60周年記念事業として、地元の養護施設などへフラワーボックスを寄贈してきました。現在も活動を続け、地域の方々に喜ばれています。（北九州営業所）



北九州営業所 (左から)吉田所長 仙頭社員

### 〈表彰制度への積極的な応募〉

2021年度の環境経営レポートでは、NPO法人九州環境カウンセラー協会主催の「環境経営レポート大賞・九州」において「外部コミュニケーション優秀賞」を受賞しました。本業に沿った環境経営を評価して頂きました。



林社員 中島社長 徳留G長

外部の方とのコミュニケーションツールとしても活用しています！

## ■ 主な環境関連法規の遵守状況

当社事業活動に関する環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去に違反はありませんでした。また、関係機関などからの違反などの指摘や利害関係者からの訴訟も過去ありませんでした。

全社に共通するもの	緑化事業に関するもの	森林管理事業に関するもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性基本法</li> <li>・建設物省エネ法</li> <li>・温暖化対策推進法</li> <li>・グリーン購入法</li> <li>・循環型社会形成推進基本法</li> <li>・フロン排出抑制法</li> <li>・建設リサイクル法</li> <li>・浄化槽法</li> <li>・廃棄物処理法</li> <li>・家電リサイクル法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源有効利用促進法</li> <li>・騒音規制法</li> <li>・振動規制法</li> <li>・PRTR法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林法</li> <li>・自然公園法</li> <li>・オフロード法</li> <li>・消防法</li> </ul>

## ■ 環境委員会の開催

当社は、環境経営の一環として、環境委員会を年2回開催し、必要事項を審議・決定しています。



環境委員会の様子

環境活動戦略に関する事項を審議調整！

- ①環境活動に関する基本方針・行動計画
- ②環境活動実績の評価・見直し
- ③地球環境問題に関する内外一般情報、技術開発情報の収集・整理、活動の推進
- ④環境活動に関する社内外へのPR

## ■ 環境マネジメントシステム（EMS）レベル向上に向けた社内環境教育の展開

### 〈EA21更新審査〉

EA21では、当社EMSレベルの定着状況について第三者による審査を受けています。



中島審査員に対応する 福岡営業所 中野所長・秋月社員



審査員から総評を受ける 中島社長・EA21事務局



### 〈丸林イノベーションスクールの開催〉

当社では、人材育成と技術力継承を目的に、新たな事業展開への気づきや効果的な業務改善活動を図るため、定期的に社内スクールを開催しています。

#### 2021年度テーマ

- ・バイオマス発電
- ・ロボット芝刈り機
- ・山下池一帯を活用した新たなビジネスチャンス
- ・RPA(Robotic Process Automation)

それぞれのアイデア出し



森の中でのワークショップ



各班発表

発表を行う新宅社員

### 〈環境上の緊急時対応訓練の実施〉

環境事故の未然防止の観点から、緊急事態を想定した訓練を実施しています。



燃料漏れが発生！（想定）



中和剤散布



砂を散布し、安全に処理

# 代表者による全体の評価と見直し・指示

## (全体の評価)

- ・環境経営方針に沿った環境経営目標（定量・定性）とその達成に向けた具体的な取組みを示す「環境経営計画」の着実な実践に向け、事業活動と環境経営が有機的に連携された企業行動が定着化しているものと評価しています。
- ・着実にPDCAをやり通す姿勢が、「外部コミュニケーション優秀賞」受賞という成果に繋がりました。前年に行った従業員アンケートで得られた「気づき」をふまえ、環境経営レポート作成に反映させたことも「読者に分かりやすい構成」との評価に至ったものと思います。

## (見直し・指示)

- ・環境活動項目毎の評価及び見直しについて、引き続き環境活動の品質水準に磨きをかけていく観点から、以下の諸点を検討して下さい。
- 環境活動による成果とこれに要する費用との均衡について
- 環境経営レポート素材をお客さまへ情報発信する魅力あるホームページへの展開

## 2022～2024年度環境経営目標・環境経営計画

代表者による全体の評価と見直し・指示に加え、エコアクション21中間審査で得られた気づき等をふまえ、2022年度以降の環境経営目標、環境経営計画について、環境委員会での審議を経て、次ページ（p19）のとおり取り組んでいくこととしました。

(参考) エコアクション21中間審査報告書 [2022年2月7日実施] からの気づき

### ■評価された点

EA21監査と内部監査を同時期に効率的に実施しており、監査に備えての監査勉強会を開催して、監査における課題点や留意点を確認するなど、充実した内部監査の実施に取り組んでいることを評価していただきました。

⇒5 環境管理の推進（次ページ参照）EMS自立運用の定性目標達成に向け、次年度以降も継続・充実して取り組みます。

### ■改善すべき点

EA21中間審査において、自己チェックに関する事項など、2項目の改善点をご指摘いただきました。

⇒中間審査報告書受領後、速やかに是正しました。

環境方針		2022~2024年度			
		環境経営目標		主な環境経営計画	
1 脱炭素社会への貢献	温室効果ガスの排出抑制への着実な取組み	事業所における省エネルギー活動の推進	二酸化炭素排出量 (単位:t-CO <sub>2</sub> )	320以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調の適温化(冷房28℃程度、暖房19℃程度)の徹底</li> <li>パソコン・プリンタ等の不使用時電源オフの徹底</li> <li>始業前、昼休み、残業時等における不必要照明の消灯</li> <li>エレベーターの使用抑制及び階段利用の促進</li> <li>車両更新時における低公害車への計画的切替の実施</li> <li>エコドライブの確実な実施</li> </ul>
			電力消費量(単位:MWh)	201以下	
		車両燃料消費率 (単位:km/ℓ)	13.8以上		
	事業所における省資源活動の推進	上水使用量(単位:m <sup>3</sup> )	795以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水意識を喚起するシールの活用などによる日頃からの節水の励行</li> </ul>	
オゾン層の保護	規制対象フロン回収徹底と代替化への取組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>法定点検を確実に実施。空調入替の際には規制対象フロンの確実な回収と代替化の取組みを実施</li> </ul>		
電化の推進	オール電化の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>お客さま来訪時に目に付く場所(本店玄関ホール)を活用し、オール電化のPRを実施</li> </ul>		
	社有車のEV化推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年度EV車入替に向け、計画を策定し、合わせて高速充電器の設置を検討</li> </ul>		
2 循環型社会への貢献	廃棄物のゼロエミッション活動の展開	廃棄物・古紙リサイクル率の維持・向上への取組み	一般廃棄物発生量(紙類以外)(単位:kg)	1,318以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般廃棄物発生抑制及び分別徹底によるリサイクル促進</li> <li>古紙リサイクルの徹底</li> </ul>
			産業廃棄物リサイクル率(リサイクル量/発生量)(単位:%)	オフィス・工場	95.0以上
		環境リサイクル事業の積極的活用		現場	95.0以上
	循環型社会形成に寄与する事業活動の着実な展開	間伐材有効利用率(単位:%)	34.0以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>林地残材の有効利用率の向上、及び間伐における低質材の利用向上</li> </ul>	
	コピー用紙購入量削減(新規)	コピー用紙購入量削減の徹底	コピー用紙購入量削減の徹底(kg)	2,780以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>縮小・両面印刷、裏面利用を推進すると共に、オンライン会議による会議資料のペーパーレス化を実施</li> </ul>
グリーン購入の徹底	事務用品(紙類、文具類)とそれ以外のグリーン購入の徹底	事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)(単位:%)	95.0以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底</li> <li>事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底</li> </ul>	
3 自然共生社会への貢献	環境保全の推進	自然共生社会の形成に寄与する事業活動の展開	緑化工事受注件数(単位:件)	200以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑豊かな社会に貢献するため、緑化工事を推進</li> </ul>
		生物多様性への取組み	希少種の保全活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な情報収集とマッピング</li> <li>蓄積・分析したデータのステークホルダーへの提供など適正管理へ向け各種活動の展開・改善を実施</li> </ul>	
			事業における環境リスクの低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェックリストの活用・充実</li> <li>各作業項目におけるチェックリストの活用による生物多様性へ配慮した施行推進並びに施業完了後の影響評価の実施</li> </ul>	
		化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>影響の最小化と使用抑制</li> <li>周辺環境への影響を最小限に留めるとともに、使用する化学物質の種類についても代替物質の活用などにより極力PRTR制度対象物質の使用を抑制</li> </ul>		
環境上の事故及び緊急事態への準備・対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境上の緊急事態を想定した訓練の実施および訓練終了後の検証・改善</li> </ul>				
4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進	環境情報の積極的な公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営レポートの内容充実、ホームページ等での公開</li> </ul>		
		環境経営レポートの内容充実と積極的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力会社やお客さまへのコミュニケーションツールとして積極的に活用</li> </ul>		
	地域における環境活動の推進	地域に密着した環境活動への取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動、植樹活動などのボランティア活動への積極的な参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「くじゅう九電の森」を活用した環境教育の検証と改善(検証月数/開催月数=100%)</li> <li>「くじゅう九電の森」を活用した環境教育の検証と改善を実施</li> </ul>	
5 環境管理の推進	EMSの自立運用	事業特性等に応じたEMSレベル向上への取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部監査の際、EA21監査(運用業務支援)を同時に実施(EA21中間審査で評価いただいた点)</li> </ul>		
	環境データの確実な把握と目標管理の推進	環境関連データの確実な把握と実効性の高い目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境関連データの全社大での確実な把握に努め、的確な目標管理と設定目標の実効性向上</li> </ul>		
		環境経営目標等の達成に向けた各所での効果的な取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果を的確に活用し、取組状況も含めた環境経営実績の分析・評価を確実に実施</li> </ul>		
		環境会計データの確実な把握と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営のコスト及び効果を可能な限り定量的に把握・分析し公表</li> </ul>		
	環境教育の実施及び環境情報の共有化	環境の情勢変化に対応した各種環境教育の実施・参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州電力が主催する各種環境教育へ積極的に参加するとともに、社内環境勉強会を検討・実施</li> </ul>		
		九電グループ情報ネットワークの活用による環境情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> <li>九電グループ情報ネットワーク内の「九電グループ環境情報」を積極的に活用し、環境情報を共有</li> </ul>		
環境関連法令の遵守徹底	環境法規制等の特定	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境関連法規等を特定し、遵守状況の洗い出し(棚卸し)を確実に実施</li> </ul>			
	環境法規制等遵守状況の確認・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境法規等の特定および遵守状況評価の実施</li> </ul>			



🔍 環境を守る 九州林産 🖱️



表紙写真について

当社は、長年にわたり管理・保育する九州電力社有林の平治岳に生息する希少種ミヤマキリシマの保護活動を行っています。ミヤマキリシマは準絶滅危惧種に指定されており、5月の下旬から6月の中旬の短い期間だけ楽しむとても貴重な植物です。